

麻疹（はしか）・風疹混合ワクチンの予防接種を受けられる方へ

1. 病気について

◆ 麻疹

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。約10日の潜伏期の後に、38℃以上の発熱とともにカタル症状（鼻汁、咳、目やに結膜充血等）がみられます。一時おさまりかけたと思うと、再度高熱と全身性の発疹が現れて高熱は4～5日続きます。全身性の発疹が現れる前くらいから頬の内側コプリック斑（まわりが赤く中心が白い粘膜疹）が認められます。その後解熱して発疹も消失します。麻疹に罹患した場合、特別な治療法はありません。感染から回復期までの約1ヶ月間『免疫不全』の状態が生じます。そのため二次感染、その他の合併症で小児にとって致命的な事態を招くことがあります。

◆ 風疹

風疹ウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間で、軽い風邪症状ではじまり、発疹、高熱、後頸部リンパ節腫脹が見られます。発疹も熱も3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。妊婦が妊娠早期にかかると先天性風疹症候群（心臓病・白内障・聴力障害）と呼ばれる児が生まれる可能性が高くなります。また大人になってから風疹にかかると重症化するといわれています。

2. ワクチンの効果と副反応

◆ 効果

風疹ワクチンを接種することによって95%以上の方が免疫を獲得しますので、ワクチンを接種してからであれば、風疹の患者さんと接触してもほとんどの場合発症を予防することができます。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。

◆ 副反応

副反応の主なものは発熱と発疹で、これらの症状は接種後4～14日に多く見られます。接種直後から数日中に過敏症状として考えられる発熱、発疹、かゆみなどが見られることがあります。これらの症状は1～3日で治ります。これまでの麻疹、風疹の副反応のデータから、アナフィラキシー様症状血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等の副反応がまれに生じる可能性もあります。

3. 予防接種を受けることができない人

① 妊娠している女性及び妊娠している可能性がある女性

ワクチン接種後はすくなくとも2ヶ月の避妊が必要です。万が一、ワクチンを接種した後に妊娠が分かった場合は、かかりつけの産婦人科の先生にご相談下さい。ない、これまで世界的に見ても、ワクチンによる先天性風疹症候群の患者さんの報告はありませんが、その可能性が否定されていないので、接種前の注意が必要です。

② ワクチンを受ける3ヶ月以内にガンマグロブリン（血液製剤の一種で、重症の感染症の治療などに使われます）の注射あるいは輸血をうけたことがある人

免疫が十分にできませんので、接種を受けることを延期する必要があります。また、大量のガンマグロブリンの注射をうけたことがある人は、6ヶ月程度延期する必要があります。

③ 前回のワクチンから期間があいてない人

生ワクチン（麻疹、風疹、BCG、ポリオ、水ぼうそう、おたふくかぜ、黄熱ワクチンなど）の後は27日以上、不活性化ワクチン（インフルエンザ、三種混合（百日咳・ジフテリア・破傷風）、二種混合（ジフテリア・

破傷風)、日本脳炎、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、肺炎球菌ワクチンなど)の後は6日以上接種の間隔をあける必要があります。

- ④ 接種直前の体温が37.5℃以上ある人
- ⑤ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ⑥ 過去に麻疹風疹混合ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ⑦ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

4. 予防接種を受けるとに、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- ② 発育が遅く、医師や保健師の指導を継続して受けている人
- ③ 風邪などのひきはじめと思われる人
- ④ 前回の予防接種を受け、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ⑤ 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑥ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑦ 過去に免疫不全と診断されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑧ 麻疹風疹混合ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑨ 家族、遊び友達、クラスメートのあいだに麻疹(はしか)、風疹、おたふくかぜ、水ぼうそうなどの病気が流行しているときで、まだその病気にかかったことがない人
- ⑩ 妊娠の可能性がある人
- ⑪ 気管支喘息のある人

5. 予防接種を受けた後の注意

- ① 接種後30分は病院にいるなどし様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師にすぐ連絡しましょう
- ② 接種後2~3週間は、副反応の出現に注意しましょう
- ③ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう
- ④ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう
ただし、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう
- ⑤ 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください
- ⑥ 接種後2ヶ月は妊娠しないように注意してください